

大切なのは「成し遂げたい」という自分の意志



(プロフィール)

宮澤 初美 氏

所 属 埼玉県立循環器・呼吸器病センター
脳神経外科病棟 主任

勤 続 17 年目

卒業 深谷市准看護婦学校
医療法人 信猶会菊地病院
熊谷市医師会看護専門学校 卒業

—看護師を志したきっかけはありますか

幼少期に父を病で亡くしたことが、看護の道を意識した最初のきっかけになったと思います。高校在学中に看護体験に参加し、産婦人科病院でアルバイトをしていました。高校卒業後に看護専門学校への入学を選択し、准看護師の資格を取得しました。学校に入学した頃は、准看護師と看護師の違いすらよく理解できていませんでした。准看護師の資格を取るという目標を達成することに手いっぱい、その先は考えていませんでした。

准看護師として10年近く働き、その間に結婚・出産を経験しました。毎日忙しくしている中で「准看護師制度が廃止されるかもしれない」という話を聞いたことが看護師を目指すきっかけとなり、深く看護を学びたいという気持ちが強くなりました。

—育児・プライベートと学業の両立はどのようにされましたか

当時は民間の病院に勤めていました。就学を機に正職員からパートに勤務形態を変更し、シフトも看護学校の授業に間に合うように調整して頂きました。看護学科に入学した時は30才代目前でした。若い子についていけるか不安を感じていましたが、同級生には50才代の方もいました。「学びたいと思ったらいつでも学べる」、背中を押された気持ちになったことを痛切

に感じたのを覚えています。このことは、今でも自分の糧になっていて、これから先も学ぶ気持ちがある限りチャレンジしていきたいと思っています。

育児については夫と協力し、母や叔母のサポートもある恵まれた環境でした。しかし、自分の学校と子どものイベントが重なり、単位取得の為参加出来ない事がありましたので、寂しい気持ちにさせたことがあったのではないかと思います。それでも、子どもたちは応援をしてくれて、上の子が下の子を寝かしつけしてくることもありました。また、当時上の子は小学校1,2年生だったのですが、彼女が宿題をしている横で自分もテキストを開き、国家試験の勉強をするなどして一緒に時間を過ごしていました。娘たちがいたから今の自分がありますし、貴重な時間を過ごすことができたと思っています。

—看護師になって変化したことはありますか

県の職員となり、看護協会にも入会しました。協会員になったことで、学びの場が増えたことはありがたかったです。こんなに研修があるのか、と驚きました。

災害支援ナースにも登録し、昨年は日本災害看護学会の『まちの減災ナース指導者®』の研修を修了しました。これをきっかけとして、今年9月には、地元自治会・行政と連携し、地元市民に災害の講習会を行いました。

看護師資格を取得することで、看護においてできることが増えました。病院の中だけでなく、地域で活動することもでき、自分の世界が広がったことを感じています。

現在の職位は病棟主任です。教育担当、業務担当としてどうあるべきかについても、看護協会で開催された主任を対象とした研修で学びました。このように、多種多様な自己研鑽の場があることは看護師になって変化したことと言えます。

—今後、どんな管理者を目指しますか

これまで部長、副部長、師長をはじめとした多くの方々から多岐にわたり、御指導・御支援を頂きました。主任になり、皆さんからの教えを胸に、自分が頂いたように支援をしていきたいと思っています。

現在の課題は、コロナ禍で学生時代を過ごし実習に出られないまま入職した世代との関わり方です。皆さん学習は良くできていて真面目です。患者さんのために一生懸命に病態を調べ、看護計画を立案する姿を嬉しく思っています。看護学生は学内実習などアルバイトも出来る状況ではなく、同世代での会話はできても世代が異なる人と接する機会がなく、コミュニケーションが苦手だというスタッフがいます。師長から、「ホウ・レン・ソウ」ではなく、今は「ザッソウ：雑談ができて初めて相談ができる」というアドバイスの言葉を頂いたので、看護の厳しさの中にも雑談も交え、笑顔で仕事を続けられる環境を作りたいと思っています。

例えば、看護の場における指導中に、患者さんの不安に寄り添う中で、ちょっとした日常の雑談やご家庭の話などをすると、患者さんと看護師の双方に笑顔が見えることがあります。そんなシーンを積み重ねることで、コミュニケーションの輪が広がっていく体験をしてもらいたいと思っています。

—看護の道を目指している皆さんにメッセージをお願いします

進学にあたって一番大切なのは「絶対にこれを成し遂げたい」という自分の意志だと思います。「〇〇があるからできない」ではなく「〇〇があったから、(工夫をして)できた」に変えていこうと周囲にはことあるごとに伝えていきます。できない理由を嘆くことではなく、大事なのは「やると決める」ことです。自分は“こうしたい”“こうなりたい”のだという意欲を示していけば理解者は増え、支援の手が伸びてくることが

あります。准看護師時代の同期の中には、通学が困難だという友人が何人かいましたが、なんとか看護師になりたいと通信で学んだ人もいます。

チャレンジへのきっかけは至るところにありますので、どんな状況でも、年齢がいくつだとしても学びたいと思った時にチャレンジしてほしいと思います。私もこれからチャレンジしたいと思った時に、どうしたら成し遂げることができるかを工夫しながら、周囲の方と一緒にあきらめず進んでいきたいと思っています。

(聞き手:看護を考える委員会 委員長 須田裕子)

大学受験や就職の相談を母にした時に言われた言葉があります。それは「〇〇があるからできないと諦めることは絶対にしないこと。〇〇があっても自分がやりたいことを最後まで諦めず努力することが大切。1人の力で無理なら、周りに助けを求め、達成出来るように努力すること」です。現在私は就職し、幾度も壁に当たる事があります。そのたびに母の言葉を思い出し、職場の上司に指導、助言を受け、同僚に支えてもらい現在に至ります。

社会人、親として尊敬できる母です。体調には気をつけて、いつまでもパワフルな母でいてください！

(娘さんより)